



信金中央金庫  
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所  
ニュース&トピックス  
(2013. 11. 26)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048  
URL <http://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

2012年度末 信用金庫の個人向け貸出先数の動向

とね かつゆき しなだ ゆうし  
刀襦 和之、品田 雄志

信用金庫の個人向け貸出の動向をみると、残高が反転しつつあるのに対し、先数は減少が続いている。そこで本稿では、個人向け貸出先数の動向について分析することとした。

ポイント

- 全国信用金庫の2012年度末の個人向け貸出先数は、前期比2.1%減少の359万3,835先となり、現在の統計開始以降、19年連続で前期を下回った。内訳は、住宅ローン、教育ローン、カーローン等（以下「住宅ローン等」という。）が178万6,978先、カードローン等が133万5,925先、その他は47万928先であり、2002年度比で10.2%、41.9%、50.9%、それぞれ減少している。
- 地区別の個人向け貸出先数は、全11地区で前期を下回った。2002年度比でも全11地区で先数を減らしているが、東海は20%台前半の減少率にとどまった。
- 2012年度中における信用金庫別の個人向け貸出先数と貸出金残高の増減状況は、①先数・残高ともに増加が31金庫、②先数・残高ともに減少は162金庫などとなった。
- 2002年度から2012年度までの国内銀行の個人向け貸出先数は、住宅ローン等が10.0%増加したこともあり、全体で6.5%減にとどまった。

※本稿は、日本銀行「貸出先別貸出金」より作成している。なお、賃貸住宅向け貸出（アパートローン）は、個人向け貸出に含めない。

1. 信用金庫の個人向け貸出先数

(1) 先数の推移

全国信用金庫の2012年度末の個人向け貸出先数は、前期比7万8,803先、2.1%減の359万3,835先となった<sup>1</sup>（図表1）。顧客数の減少などから、個人向け貸出先数は現在の統計開始以降、19年連続で前期を下回っている。

2002年度末と比較すると、165万7,950先、31.5%の減少となった。

全国信用金庫の個人向け貸出金残高が10年間で6.6%の減少だったことを勘案すると、1

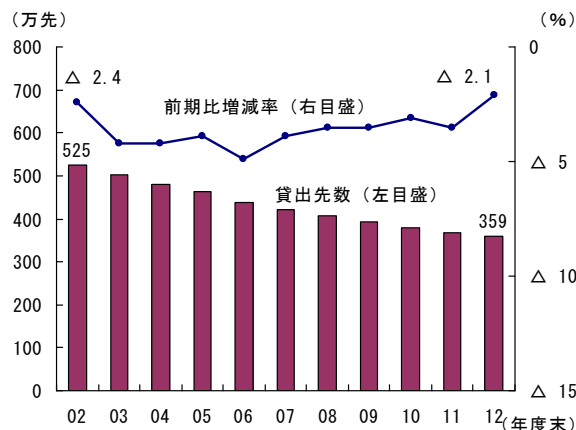
先あたり残高は増加傾向にある。

(2) 先数の内訳

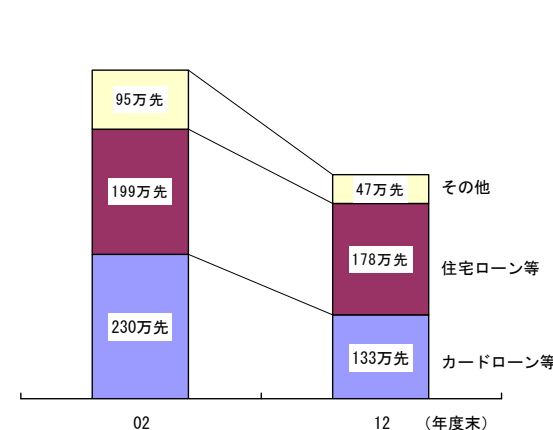
2012年度末の個人向け貸出先数の内訳をみると、住宅ローン等が178万6,978先（構成比49.7%）、カードローン等が133万5,925先（37.1%）、その他は47万928先（13.1%）であった<sup>2</sup>。

2002年度と比較すると、住宅ローン等は10.2%、カードローン等は41.9%、その他は50.9%、それぞれ減少しており、なかでもカードローン等の減少が目立つ。

（図表1）信用金庫の個人向け貸出先数



（図表2）信用金庫の個人向け貸出先数の内訳



<sup>1</sup> 2004年度には貸出業種の分類を実態に合わせたこと、2009年度には日本銀行「業種別貸出金調査表」の業種別分類が変更されたことから、両年度とも個人向け融資の一部が不動産業向け融資に振り替わっている。

<sup>2</sup> 「住宅ローン等」は、割賦契約の貸出を指し、住宅ローンに加え教育ローンやカーローンの割賦契約分を含む。「カードローン等」は、クイックローンやバンクカードを含む。「その他」は、割賦契約以外のローン、納税資金からなる。

## 2. 信用金庫の地区別の個人向け貸出先数

2012年度末の地区別の個人向け貸出先数は、全11地区で前期を下回った(図表3)。全国の減少数に対する東京と関東の減少割合(合計3万1,727先)は、全体の4割を占める。

2002年度末と比較すると、東京(42.9%減)、北海道(37.5%減)、北陸(35.2%減)の順に減少幅が大きかった。一方で、個人向け貸出金残高が伸びた東海は、23.1%減にとどまった。

## 3. 信用金庫別の個人向け貸出先数

2012年度中における信用金庫別の個人向け貸出先数と貸出金残高の増減状況は、先数・残高とも増加が31金庫(構成比11.4%)、先数増加・残高減少が11金庫(4.0%)、先数減少・残高増加が66金庫(24.4%)、先数・残高とも減少が162金庫(60.0%)であった(図表4)。

内訳では、住宅ローン等の先数・残高とも増加した信用金庫が90金庫、カードローン等の

先数・残高とも増加した信用金庫は33金庫であった。

なお、個人向け貸出先数と残高が前期比増加した31金庫のうち、住宅ローン等とカードローン等の両商品の先数および残高が増加した信用金庫は12金庫となった。

## 4. 国内銀行との比較

2002年度末を基準に信用金庫および国内銀行の個人向け貸出先数の変化を比較すると、信用金庫は2012年度末で68.4に、国内銀行は93.5になった(図表5)。

内訳をみると、国内銀行は住宅ローン等が110.0に上昇したことに加え、カードローン等も90.3にとどまった。

なお、残高ベースでも、2002年度末基準の個人向け貸出金残高は、国内銀行が120.8(2012年度末)となり、信用金庫の93.4を大きく上回っている。

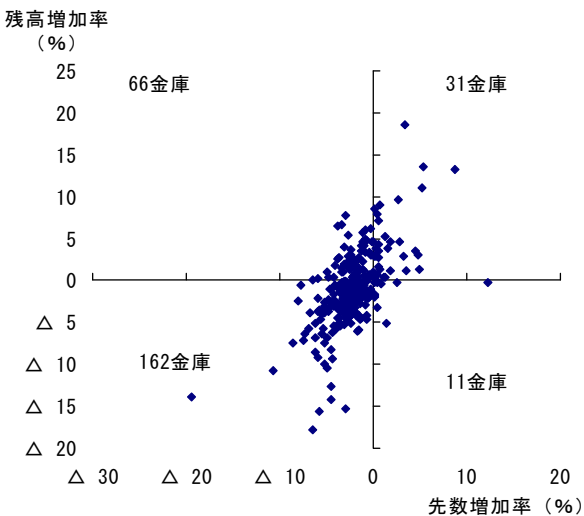
以上

(図表3) 信用金庫の地区別の個人向け貸出先数

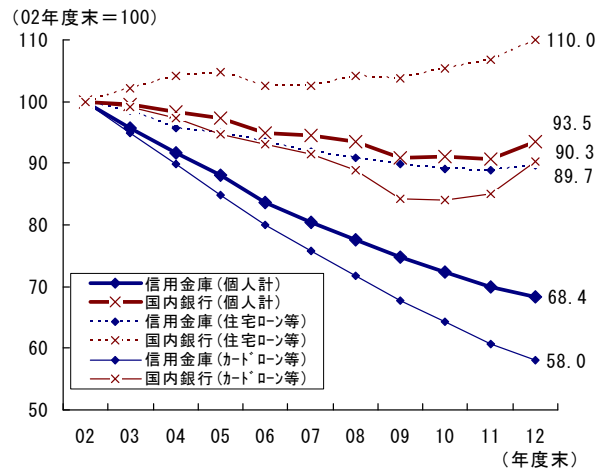
地区	02年度末	11年度末	12年度末	(参考)				個人向け貸出残高	
				02年度末対比		11年度末対比		02年度末	12年度末
				増減率	増減数	増減率	増減数		
北海道	299,598	191,643	187,007	△ 37.5	△ 112,591	△ 2.4	△ 4,636	7,456	6,845
東北	356,394	252,479	244,369	△ 31.4	△ 112,025	△ 3.2	△ 8,110	7,950	6,001
東京	675,904	402,639	385,865	△ 42.9	△ 290,039	△ 4.1	△ 16,774	41,141	32,173
関東	1,002,143	706,398	691,445	△ 31.0	△ 310,698	△ 2.1	△ 14,953	38,601	35,902
北陸	186,977	125,252	121,045	△ 35.2	△ 65,932	△ 3.3	△ 4,207	5,796	4,711
東海	876,973	679,765	674,103	△ 23.1	△ 202,870	△ 0.8	△ 5,662	34,191	42,384
近畿	926,040	647,556	637,989	△ 31.1	△ 288,051	△ 1.4	△ 9,567	37,505	34,508
中国	332,730	232,057	224,832	△ 32.4	△ 107,898	△ 3.1	△ 7,225	9,295	8,243
四国	188,045	140,976	137,854	△ 26.6	△ 50,191	△ 2.2	△ 3,122	4,479	3,590
九州北部	159,647	110,007	106,720	△ 33.1	△ 52,927	△ 2.9	△ 3,287	3,817	3,549
南九州	237,377	176,282	174,989	△ 26.2	△ 62,388	△ 0.7	△ 1,293	4,797	4,312
合計	5,251,785	3,672,638	3,593,835	△ 31.5	△ 1,657,950	△ 2.1	△ 78,803	195,395	182,516

(備考) 沖縄県は合計に含む。

(図表4) 個人向け貸出先数と残高の増減状況  
(信用金庫、12年度中)



(図表5) 個人向け貸出先数  
(信用金庫、国内銀行)



本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。